

各 位

武雄・杵島地区農業指導連絡協議会
杵島農業改良普及センター

「稲作情報（第9号）」について（送付）

このことについて、下記のとおり「稲作情報（第9号）」を送付しますので、業務の参考にしてください。

1. 気象概況

月	半旬	平均気温			最高気温			最低気温			降水量			日照時間		
		平年 (°C)	R5 (°C)	平年差 (°C)	平年 (°C)	R5 (°C)	平年差 (°C)	平年 (°C)	R5 (°C)	平年差 (°C)	平年 (mm)	R5 (mm)	平年比 (%)	平年 (hr)	R5 (hr)	平年比 (%)
7月	1	25.4	26.0	0.6	29.2	29.1	-0.1	22.4	23.4	1.0	90.3	127.0	141	16.3	2.7	17
	2	26.1	27.1	1.0	30.1	30.1	0.0	23.0	24.4	1.4	83.2	227.5	273	20.3	10.4	51
	3	26.7			30.9			23.5			61.9			24.2		
	4	27.3			31.8			23.9			43.1			28.0		
	5	27.7			32.5			24.2			36.2			31.4		
	6	28.1			33.0			24.5			39.2			41.0		

○7月2半旬の平均気温は、平年に比べて1℃ほど高く推移した。また、周期的にまとまった降雨があり、日照時間は寡照傾向となった。

2. 水稻情報田の生育状況（調査日：7月12日）

項目 品種(設置場所)	年次	草丈 cm	茎数 本/㎡	主稈 出葉数L	葉色 SPAD	概 要
さがびより 6/22移植 武雄市橋町	本年値	37.9	196	7.3	38.5	<ul style="list-style-type: none"> 草丈は平年より高く茎数は平年より少ない。 ※スクミリンゴガイの食害による影響もある 主稈出葉数は平年より0.3葉少ない。 葉色は平年より淡い。
	平年値	35.7	206	7.6	40.4	
	平年比	106	95	-0.3	-1.9	

※さがびよりの平年値はH21～R4の平均値。

(耕種概要)

品 種	年次	苗質		移植日 (月日)	栽植密度 (株/㎡)	備考
		苗丈	葉令			
さがびより	本年値	13.8	3.5	6月22日	17.0	前作 小麦
	平年値	13.7	3.3	6月21日	16.0	

3. 管内の生育状況（7月12日時点）

- 1) 七タコシヒカリ：現在、乳熟期となっている。
本年は早いところで6月27日出穂し、出穂盛期は6月28日～30日となった。
なお、情報田の出穂期は6月30日となり、平年並みとなった。
- 2) 夢しずく（普通期）：現在、分けつ盛期である。
移植後から断続的な降雨と寡照傾向で推移しているため、草丈が伸長し茎数は少なく、軟弱徒長ぎみの生育である。
- 3) さがびより：現在、分けつ盛期である。

4) その他特記事項

- ・まとまった降雨により、常時深水状態の圃場においては、スクミリンゴガイによる食害や除草剤の薬害の発生を散見された。
- ・移植後の気温が高めに推移したことから、雑草の発生が早い段階で確認されている。特にホタルイやコナギなどの問い合わせが増えた。

3. 今後の管理

1) コシヒカリ

(1) 水管理

- ・「コシヒカリ」は、乳熟期を迎えている。なお、積算温度による刈取り積算目安表は別紙参照。
- ・水管理は、根への酸素供給を図るためにも常時湛水するのではなく間断灌水（潤土管理）を行う。ただし、玄米の品質低下を避けるため、土壌表面が白乾しないように、好天が続く場合は必ず走り水を行う。

(2) 病害虫防除

- ・「七タコシヒカリ」は県特別栽培農産物に応じた栽培を取組んでおり、農薬成分回数9成分を超えないような栽培管理が重要である。

①斑点米カメムシ類

- ・病害虫発生予察7月予報（6月28日付け佐賀県農業技術防除センター発表）」では、斑点米カメムシ類の発生は「やや多」である。
乳熟期（穂先がちょっと傾いたころ：穂前期の約10日後）の時期には薬剤防除を実施する。
なお、七タコシヒカリは特別栽培認証制度に応じた栽培法を実施しているため、農薬散布にあたっては農薬成分回数9成分を超えないように注意する。

②いもち病

- ・曇天傾向で推移しているので葉色が濃く生育旺盛の圃場においては要注意である。（大雨対策資料等参照）

2) 山間早植え水稻（主に夢しずく）

- ・水管理は間断灌水を実施する。今後、生育ステージ（品種によって異なる）は幼穂形成始期をむかえる。曇天の影響を受けて全般的に草丈は高く葉色は濃い。
- ・7月上中旬頃に幼穂形成期を迎えるため、表2を参照して穂肥を施用する。
ただし、本年は山間早植え水稻において「いもち病」が確認されているので、発生状況等によっては穂肥は減ずる。（進展型病斑を確認した場合は、穂肥は控え臨機防除を行う）

《表1 夢しずくの穂肥診断指標（穂肥の資材は地域栽培暦を参照する）》

幼穂形成始期の草丈(cm)	葉色		施用時期		穂肥施用量 (kg / 10a)	
	群落	SPAD-502	出穂前日数	幼穂長	窒素分量	BB602
	3.0以下	34以下	22~20日前	1 mm	3.0	18 kg
73cm以下	3.0~3.5	38以下	20~18日前	2 mm	3.0	18 kg
	3.5~3.8	38~39	15~14日前	10~15mm	1.5~2.0	10~12kg
	3.8以上	40以上	晩稔は止葉抽出終了まで		1.0以下	6 kg
73~79cm	3.0~3.5	34以下	20~18日前	2 mm	1.5~2.0	10~12kg
	3.5~3.8	38~39	15~14日前	10~15mm	1.0	6 kg
	3.8以上	40以上	施用しない			
80cm以上	原則として施用しない					

※ 草丈は幼穂の伸長程度より幼穂形成始期（幼穂長1mm）を基点に、前後1日当たり1cm増減する。

※ 止葉が抽出し終わった後は施用しない。

【穂肥診断の方法】

- ① 幼穂形成始期頃の草丈を測る。
- ② 葉色（群落・SPAD 値）を測る。
- ③ 上記①②の測定値を診断指標にあてはめて
施用量を確認する。
- ④ 施用量が確認できたら、記載された施用時期
に穂肥を施用できるよう準備する。

※穂肥施用できるのは、葉色が「笹の葉色以下
（3、5以下）」になってからである。



葉色板がなくとも、山笹の葉色にならないと
穂肥施用はできない

3) 普通期水稻

(1) 「夢しずく」

- ・ 移植後の断続的な降雨により常時湛水した圃場ではガスの発生が目立っている。
さらに前作の残さや、麦わらが多い水田では、今後ガス（湧き）と還元（酸素不足）が進むことが予想される。「ガスの発生が著しい場合」は、除草剤処理から7日経過したら、「ガス抜き」のために半日～1日程度の落水を行う。特に、足を踏み入れずに自然に気泡が出るようであれば直ちに落水する。

（表3参照）

《表2 ガス（湧き）発生程度及び対策》

湧きの程度	様相とガス程度水稻への影響	水稻への影響	ガス対策（7月上旬以降）
稀	足を踏み込んでも気泡なし	なし	必要なし
少	足を踏み込むとわずかに気泡が見られる	なし	必要なし
中	足を踏み込むと気泡の発生が多い	根の活力低下	落水後に用水更新
多	足を踏み込むと盛んに気泡を発生	根張り不良	落水後に用水更新を繰り返し
甚	晴天時自然に気泡発生する（ばちばちと音が聞こえる。）水田歩くと著しく気泡発生。	根伸長阻害、黄化	中耕と用水更新を繰り返し 回復後には、間断灌水（本格的夜干）



手を田んぼに入ると、気泡（ガス）が激しく発生する

⇒ガスの障害により生育抑制や古い葉の葉先に褐色の斑点が発生する。

- ・ 移植後、気温は高く推移したことで雑草発生が早く、場合によっては除草剤の効果が十分発揮できていない圃場も確認されている。特に「ホタルイ」の発生を確認する。その場合、中後期除草剤の対応も視野に入れる（剤によっては収穫前日数に留意して使用する）

- ・移植後、高温少雨の影響を受けて表層剥離が著しく水管理が不十分な圃場では、初期分けつが確保できず茎数不足の圃場も散見されるが、**中干し作業は、移植後35日～40日まで実施する。**
中干しの草丈の目安は、「夢しずく」が45～55cm、「ヒノヒカリ」は40～50cmの間が目安である。（茎数の多少はあるが、この時期以降の分けつ茎は穂にならないため。）
いもち病が多発している圃場では、強い中干しは避けるようにする。

(参考) 中干し作業の効果と時期

(1) 中干しの効果

- 1) 無効分けつの発生防止→1茎の充実、茎を太く揃える
- 2) 下位節間の伸長防止 →稈長を長くしない、倒伏防止
- 3) 窒素の制限 →過剰繁茂防止、草型を整える
- 4) 有害物質の除去 →根の活力低下防止
- 5) 土壌に酸素供給 →根の健全化
- 6) 土壌透水性増加 →根の量の増加
- 7) 株支持力の増加 →倒伏防止
- 8) 圃場管理が容易 →田圃に入っても歩いてもきつくない

(2) 中干しの実施時期の目安

→**総葉数の7割～8割の葉が出た時の間、10葉期頃、田植後35日を中心に行う。**
止葉までの葉数の69%～77%の葉が出た時期であり、有効分けつ決定期（株当たり小さい分けつまで20本）～穂首分化期（穂の基が茎の中で出来る時）である。
また、開始時期の目安は、移植時期によって異なるが、有効茎（1株あたり20本程度の分けつ）が確保でき、株が開張しておおむね草丈が35～50cmを目途に実施する。

(3) 中干しの期間と程度（強弱）

中干し期間は、天候や土壌の種類、漏水の程度などによってちがってくるが、おおむね5～7日とする。
圃場の硬さの目安は軽く足跡が付く程度で、小さなヒビが入るくらいとする。
つまり「歩いて足跡が付くが抵抗なく歩ける硬さ」が理想である。
また、手のひらが縦にはいるようなヒビ（強い中干し）は、強い断根を伴い稲にとってダメージが大きくなる。

(2) 「さがびより」・「ヒノヒカリ」

- ・水管理等は「夢しずく」を参照する。

(3) 病害虫防除

- ・7月の病害虫予察情報（6月28日付け佐賀県農業技術防除センター発表）によると主要病害虫の発生量は以下のとおり。

《表3 7月の病害虫予察情報》

作物名	病害虫名	平年比
水稲 (早期)	穂いもち	並
	紋枯病	やや多
	斑点米カメムシ類	やや多
水稲 (普通期)	葉いもち	並
	トビイロウンカ	並
	セジロウンカ	並
	コブノメイガ	並

①いもち病

【普通期水稻】

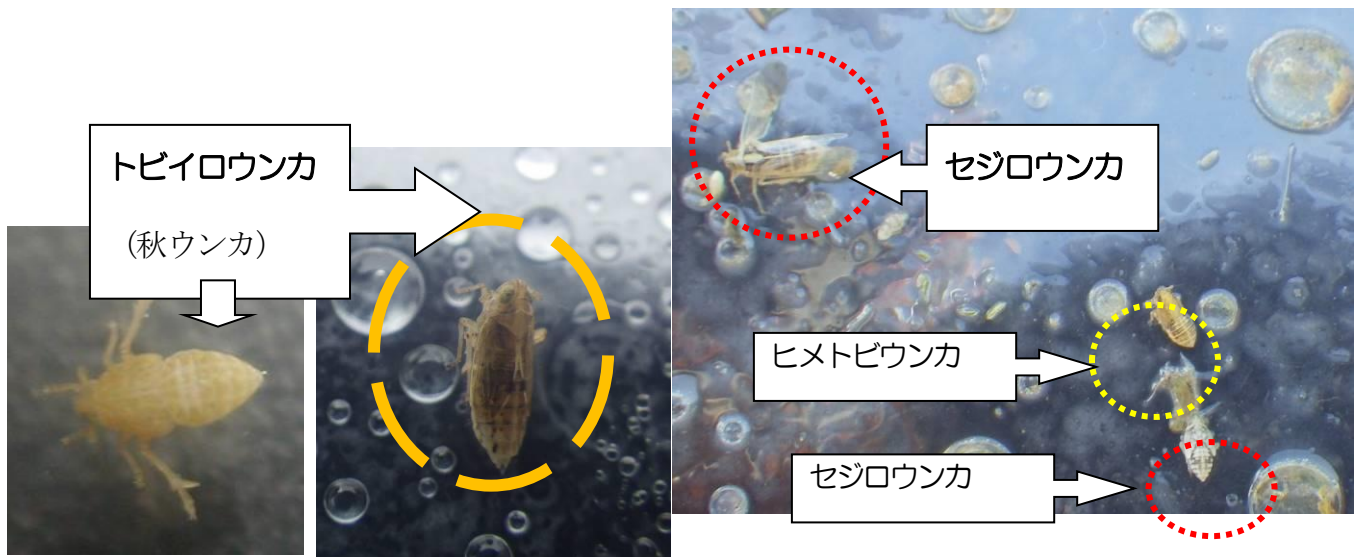
- ・圃場内に放置されている補植苗は「いもち病」や「ごま葉枯病」の温床になるため、すみやかに除去する。
- ・葉いもちの発生に注意して観察し、進展型病斑が認められれば早急に臨機防除を実施する。
その場合、オリブライト粒剤等を使用する（ただし農薬摘要に留意する）
- ・窒素過多は発生を助長するので、適切な肥培管理を行う。
- ・BLASTAM 情報は別紙参照。BLASTAM（ブラスタム）は、いもち病菌の感染に適した条件が表れたかを判定するモデルである。ブラスタムで好適条件が現れた場合、約1週間後からいもち病の初発あるいは病斑数が急激に増加することが予測されるので注意する。

②ウンカ類




- ・本年は、平年に比べ6日早い梅雨入りとなり、梅雨前線に伴い海外飛来性害虫であるウンカ類が誘殺されている。（表1参照）嬉野市の予察灯には6月30日、7月1日、3日～9日、11日にトビイロウンカの誘殺が確認されている。また、当管内では、7月上旬から水稻の株元にセジロウンカの産卵痕を確認している。なお、最新情報は、[佐賀県農業技術防除センターのホームページ](#)を参照すること。
- ・今後の飛来状況や圃場の発生状況（移植時期や品種、箱施用剤の種類、施用の有無、圃場の場所等）によってウンカ類の発生量や増殖率が異なるため、圃場での発生状況に注意する。

《表4 海外飛来性害虫情報》

	トビイロウンカ					セジロウンカ				
	佐賀県		長崎県			佐賀県		長崎県		
	佐賀市	嬉野	諫早			佐賀市	嬉野	諫早		
ネット	ライト	ライト	ネット	ネット	ネット	ライト	ライト	ネット	ネット	
6/1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6/2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6/3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6/4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6/5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6/6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6/7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6/8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6/9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6/10	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
6/11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6/12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6/13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6/14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6/15	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6/16	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6/17	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
6/18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6/19	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6/20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6/21	0	0	0	0	0	1	4	0	0	0
6/22	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0
6/23	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0
6/24	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
6/25	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6/26	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6/27	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6/28	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
6/29	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0
6/30	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0
7/1	0	12	0	0	0	0	70	1	0	0
7/2	0	0	0	0	0	0	58	0	0	0
7/3	0	15	0	0	0	0	75	0	0	0
7/4	0	4	0	0	0	0	13	0	0	0
7/5	0	19	0	0	0	1	23	19	0	0
7/6	0	3	0	0	0	0	43	31	2	0
7/7	0	4	0	0	0	2	6	0	4	0
7/8	0	14	0	0	0	0	14	0	0	0
7/9	0	3	0	0	0	1	16	1	1	0
7/10	0	0	1	1	0	0	15	6	0	0
7/11		2					10			



ウンカ類幼虫の見分け方について

	若齢幼虫の体色	中～老齢幼虫の体色	水面での後脚の出し方
セジロウンカ	白っぽい	灰白の斑紋	 : 真横
トビイロウンカ	白っぽい	薄茶か茶褐色	 : 真横～やや斜め後ろ
ヒメトビウンカ	黄褐色	淡黄色か薄茶か茶褐色 (体側の色が濃い場合あり)	 : 斜め後ろ

4. 大雨対策

①水稲 (6月30日付け対策資料参照)

②大豆 (7月11日付け対策資料参照)

・降雨のため大豆圃場において、収量・品質を確保するには、播種時期にあった苗立ちを確保することが最も重要となる。

平坦部では7月上中旬を播種適期としているので、大雨後、圃場が播種作業のできる状況になり、苗立ちが確保できる天気予報であればすみやかに播種を行う。なお播種に当たって留意点は以下のとおりである。

(1) 梅雨の間の播種対策

①トラクタで耕起可能な状態になれば直ちに耕起し播種を行う。

②天候が変わりやすい場合は、荒耕起を行わず、不耕起播種や部分浅耕播種技術、逆転ロータリを用いた一工程播種等技術の積極的な活用や、組み作業等による効率的な播種に努める。

③一般に晴天が続く場合は、除草や砕土のための荒耕起後に耕起・播種(2工程)する。

※大豆は播種後2日間の酸素要求度が非常に高いため、播種後2日間は降雨により浸水しないことが苗立確保のポイントとなることを留意する。

(2) 梅雨明け後の播種対策

①トラクタで耕起できる程度に圃場が乾いたら、耕起の上、直ちに播種する(可能であれば午後から耕起し、夕方播種するようにする)。

②梅雨明け(九州北部の平年値は7月19日頃)後は、種子の活力低下と高温障害により、土壤中で種子が腐敗しやすく、発芽率が劣りやすいため、キヒゲン等の種子粉衣を必ず行う。

(3) 共通対策

①播種後降雨の恐れがある場合は、覆土は2cm程度に浅くし、播種後の鎮圧は行わない。また降雨後種子が水没しないよう、平播きにせず畦立てを行い、畦溝が排水路につながるよう明渠(作溝)を施工する。

②播種後、好天が続くと思われる時の覆土は、砕土率を高め4cm程度に厚めにし、鎮圧を行う。

③播種期別の播種量は下記のとおりであるが、砕土率によっては発芽率が劣るので、播種量を多くする

等の対策を講じる。

(播種期別、播種量の目安)

播種期 (月/日)	栽植本数 (m ² あたり)	栽植本数 条間×株間×1株本数	播種量目安 (kg/10a)
7/1~7/5	10本	75cm×25cm×2本	3.2kg
7/6~7/15	13本	75cm×20cm×2本	4.0kg
7/16~7/25	18本	75cm×15cm×2本	5.3kg

令和5年産「七タコシヒカリ」収穫適期予想表 (アメダス観測地, 白石)

武雄・杵島地区農業指導連絡協議会作物部会
杵島農業改良振興センター
令和5年7月13日現在

月	日	平均気温		出穂期				
		平年	R5	6/26	6/28	6/30	7/2	7/4
6	24	24.0	24.9					
	25	24.2	22.9					
	26	24.3	25.9	出穂期				
	27	24.4	27.0	27				
	28	24.6	26.9	54	出穂期			
	29	24.8	26.8	81	27			
7	30	24.9	26.9	108	54	出穂期		
	1	25.1	26.0	134	80	26		
	2	25.2	26.2	160	106	52	出穂期	
	3	25.4	24.7	185	131	77	25	
	4	25.5	26.1	211	157	103	51	出穂期
	5	25.7	26.8	237	184	130	78	27
	6	25.8	26.7	264	210	157	104	54
	7	25.9	27.8	292	238	184	132	81
	8	26.1	28.0	320	266	212	160	109
	9	26.2	27.5	347	294	240	188	137
	10	26.3	25.7	373	319	266	213	163
	11	26.5	28.5	402	348	294	242	191
	12	26.6	27.3	429	375	321	269	218
	13	26.7		456	402	348	296	245
	14	26.8		482	429	375	323	272
15	26.9		509	455	402	350	299	
8	16	27.1		536	483	429	377	326
	17	27.2		564	510	456	404	353
	18	27.3		591	537	483	431	380
	19	27.4		618	564	511	459	408
	20	27.5		646	592	538	486	435
	21	27.6		673	620	566	514	463
	22	27.7		701	647	594	541	491
	23	27.7		729	675	621	569	518
	24	27.8		757	703	649	597	546
	25	27.9		785	731	677	625	574
	26	27.9		812	759	705	653	602
27	28.0		840	787	733	681	630	
28	28.1		869	815	761	709	658	
29	28.1		897	843	789	737	686	
30	28.1		925	871	817	765	714	
31	28.2		953	899	845	793	742	
8	1	28.2		981	927	874	821	771
	2	28.2		1009	955	902	850	799
	3	28.3		1038	984	930	878	827
	4	28.3		1066	1012	958	906	855
	5	28.3			1040	987	934	884
	6	28.3			1069	1015	963	912
	7	28.3				1043	991	940
	8	28.2					1019	968
	9	28.2						997
	10	28.2						

4月7日移植→出穂期6月29日~30日頃

◎ コシヒカリ収穫適期の目安

- 積算気温による目安
- 最低 850℃
- ~
- 最高 930℃

< 収穫のポイント >

- 積算表はあくまで目安です。
- 収穫は、圃場での熟れ具合を確認したうえで、作業日を決定してください。
- 早期落水すると充実不足による「ヤセ米」や「屑米」「死米」が発生し、品質低下を招くため、収穫1週間前までは必ず間断灌水を実施し、根の活力維持に努めてください。
- 麦などの異種穀粒や異物が混入しないよう、収穫作業前には、必ずコンバインや乾燥機の清掃点検を実施してください。
- 「七タコシヒカリ」の収穫は、高温条件での作業となり、ヤケ米発生が懸念されるため、一次堆積時間(トラックやコンテナでの堆積時間)はなるべく長くないよう、ついで作業を進め、収穫された籾は速やかに通風・乾燥してください。



< 収穫適期の目安 >

- ・籾水分27~28% (穂軸の先端(穂先)から1~2cmが枯れ、穂元の青籾が5~7粒残っている状態で、籾をツメで押しもつぶれなくなった時。籾水分が25%未満(積算気温で1,000度以上)になると刈遅れによる品質低下が懸念されます)
- ・収穫時期の気温が高い「七タコシヒカリ」では、普通期水稻よりも籾水分の低下が早く、刈遅れによる品質低下が懸念されるため、収穫前は圃場での稲の籾水分の推移を注視しながら、収穫適期を判断してください。
- ・早刈りすると「青未熟粒」や「死米」の発生による品質低下だけでなく収量も低下し、また、遅刈りすると「胴割米」や「茶米」等の発生による品質低下を招きます。高い品質と収量を確保するため、適期収穫に努めてください。